

慶應義塾大学出版会

2022 年 3 月新刊のご案内



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

慶應義塾大学東アジア研究所叢書

台湾で日本人を祀る

鬼^{クイ}から神^{シン}の現代人類学

(2022 年 3 月中旬刊行予定)

三尾裕子 (慶應義塾大学文学部教授) [編著]

A5 判上製 / 384 頁 税込予価 5,940 円 ISBN978-4-7664-2812-4 C3039

👉 ココに注目！

- ・「台湾で日本人を神として祀る」という行為はなぜ成立しているのか。
- ・台湾に現存するうちの 49 か所の祭祀施設（廟）の調査結果をもとに、その問いに迫る。
- ・台湾の日本人祭祀を日本統治の肯定と結びつける風潮に対しても、歴史人類学の立場から論考を行う。

台湾では日本人を祀る祭祀施設（廟）が相当数ある。日本統治時代の記憶と台湾の民間信仰の関係から、民衆の歴史認識がどのようにかたちづくられていくのかを探る。

対象 民俗学、人類学分野の研究者、大学院生

類書 呉叡人『台湾、あるいは孤立無縁の島の思想』みすず書房

営業部からのおすすめポイント

近年、日台交流の系口として「日本神」を肯定的に扱う風潮がみられますが、そこには表層的な曲解が含まれているのではないかと、という点が本書の問題意識です。「日本神」として祀られている対象（その多くは軍人）、その成立過程や台湾の人々にどう受け止められてきたかを、豊富な図版とともに詳細に分析します。民俗学や人類学の研究者に向けてのご案内をぜひよろしくお願い致します。（福本）

👉 **主要目次、注文書は裏面に掲載！** **ぜひご確認ください！**

【主要目次】

序章 台湾の民間信仰と日本神 (三尾 裕子)

第1部 メディアと観光の中の日本神

第一章 英霊と好兄弟のあいだ

——メディア言説、現地の実践、新たなコミュニケーション (藤野 陽平)

第二章 台湾の日本神をめぐる信仰と観光

——高雄の保安堂における歴史の選択と新たな展開 (原 英子)

第2部 民衆の記憶と日本神

第三章 田中綱常から田中將軍への人神変質

——民族・国家の境界を超える民衆史学 (林 美容・三尾 裕子・劉 智豪)

第四章 植民地経験、戦争経験を「飼いならす」

——植民地・戦争経験の記憶の媒体としての日本人の靈魂 (三尾 裕子)

第3部 台湾の在来宗教信仰と日本神

第五章 廟神の出自により儀礼に差異は見られるか

——台湾の日本神を祀る廟と中華神を祀る廟における儀礼・祭祀の比較 (山田 明広)

第六章 台南市内における日本人の神々

——主に航空事故に起因する事例から (陳 梅卿)

第七章 漂流物が神と成る——日本神の外来性解析 (林 美容)

補章 日本神信仰と出会う——民族誌映画撮影の経験と視点 (遠藤 協)

跋 三尾裕子

資料：日本神廟一覧

索引



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発売所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			三尾裕子 編著 慶應義塾大学東アジア研究所叢書 台湾で日本人を祀る 一鬼から神の現代人類学 ISBN978-4-7664-2812-4 C3039	5,940 円	★★

★1つで「500部」を表します